

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

「神のよき友となれ」

新島八重との出会い 山下智子

エッセイ

キリスト教出版、

キリスト教書店への提言 滝田浩之

対談書評

『10代と歩む 洗礼・堅信への道』刊行記念対談
キリストに連なる喜びを子どもたちに！

朴 憲郁×平野克己

本・批評と紹介

山下智子 著

新島八重ものがたり 坂本清音

ヨハネス・ヴァルマン 著／梅田興四男 訳
ドイツ敬虔主義 川端純一郎

デイヴィッド・B.ガウラー 著／駒木 亮 訳

神学は語る

たとえ話 木原桂二

武岡洋治 著

闇を変えて 岩橋常久

及川 信 著

盲人の癒し・死人の復活 並木浩一

渡辺英俊 著

私の信仰Q&A 大倉一郎

森野善右衛門 著

原子力と人間 小海 基

黒鳥偉作×平山正実 対話集

イノチを支える 関 正勝

別府恵子 著

回想録 増井志津代

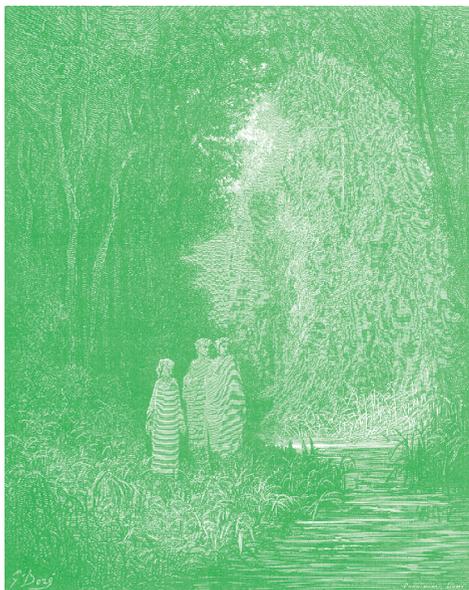
本井康博 著

徳富蘇峰の師友たち 塩野和夫

既刊案内

書店案内

6 JUNE
2013



中村妙子がティーンズに伝える『ナルニア国ものがたり』作者の心



ひかりをかかげて

C.S. ルイス

よろこびの扉を開いたひと

中村妙子

第4回
配本

ルイスにとって幼少年期は、すべてがはじまった重要な時期だった。本を読むよろこび。本と共に成長して生きる感動。幼少年期に焦点をあて、ルイスの「よろこび」の世界を共に辿る。

◆A5判 並製・122頁・1,260円

シリーズ紹介

- | | | |
|---------------------------------|------|--------|
| 『ディートリッヒ・ボンヘッファー —ヒトラーとたたかった牧師』 | 村上 伸 | 1,260円 |
| 『マーティン・ルーサー・キング —共生社会を求めた牧師』 | 梶原 壽 | 1,260円 |
| 『レイチェル・カーソン —いのちと地球を愛した人』 | 上遠恵子 | 1,260円 |

刊行予定 『岩村 昇』 田村光三／『三浦綾子』 林 あまり

旧約聖書を学ぶ基本図書、『聖書 新共同訳』準拠で待望の復刊

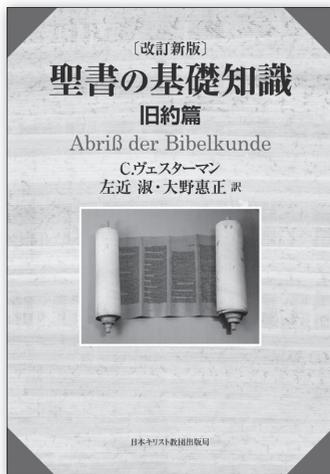
改訂新版

聖書の基礎知識

旧約篇

C.ヴェスターマン
左近 淑／大野恵正 訳

聖書全体の基本的知識を与え、旧約全体を鳥瞰し、個々の部分が聖書の中でどのような位置を占め、意味を持つのかを明らかにする。横組みとなつてより読みやすく。 ◆A5判 上製・288頁・3,990円



関連書籍

- | | | |
|-------------------|------|--------|
| 『改訂新版 旧約聖書に強くなる本』 | 浅見定雄 | 1,890円 |
| 『よくわかる旧約聖書の歴史』 | 樋口 進 | 1,890円 |



出会い・本・人

「神のよき友となれ」新島八重との出会い——山下智子

新島襄の妻・八重を主人公とした大河ドラマ「八重の桜」の放送がはじまり、様々な所で彼女についての話をさせていただく機会が増えた。思いがけない「八重さん特需」である。

昨年末『新島八重ものがたり』（日本キリスト教団出版局）を出版した。実はわたしは襄が創立した同志社大学を卒業し、その後八重の故郷に建てられたゆかりの日本基督教団会津若松教会で牧師を務め、さらに現在は襄の父祖の地に建てられその名を掲げた新島学園短期大学で宗教主任として働いている。意図的にそうしたわけではないが不思議ほど二人の足跡をたどるような人生を歩んできた。八重の生き方には以前から同じ女性とし注目しており、わたし自身とても励まされてきた。そのため執筆のチャンスを得いた時に、「しっかりと記さなくては」と責任のようなものを感じた。

八重というと、戊辰戦争時に女性でありながら男装断髪で銃を持ち勇ましく戦ったことが注目されがちだ。ともすると襄と結婚した後のクリスチャンとしての姿は忘れられ、まるで信仰がなかったかのように語られることさえある。しかし、八重の生涯をたどると当時としては非常にのびやかな信仰をもち本当にそれに支えられ歩んだことがわかる。なんとかさそうした八重の姿を広く伝えたいと願った。とはいえ限られた時間で本を一冊書き下ろすこ

とはなかなか大変な仕事だった。「もつとふさわしい人がいるのでは」という気持ちになることもあった。

そんな時のことだ。なんと曾祖父が八重と一緒にある写真に写っていることに気がついた。これには本当に驚いた。たしかに私の母方のルーツは会津だが、さすがに出来過ぎである。それまでも新島夫妻にはただならぬつながりを感じていたが、それらは単なる偶然ではなく神の必然であり、神のご計画にほかならぬわたしが用いられていることを、これ以上なくはつきりと示されたようで力づけられた。

わたしが八重について語れば一般の方々を対象でもキリスト教的になる。「神のよき友となれ」とは八重晩年の言葉だ。どんなにつらく苦しい時もキリストによってあらわされる神が八重のよき友となり彼女を支えた。八重もまたそうした神に心えて出会う人々のよき友となる生涯を志した。こうした八重の信仰者としての姿に「感動しました」と声をかけてくださる方が大勢いる。「八重ものがたり」を巡り、神さまとわたし、わたしと皆さま、皆さまと神さまの出会いの中に身を置くことは大きな喜びである。

（やました・ともこ＝新島学園短期大学 キャリアデザイン学科 宗教主任・准教授）

※『新島八重ものがたり』の書評は本誌10―11頁に掲載（編集部）

リレーエッセイ

キリスト教出版、キリスト教書店への提言

——書店さんは、どうやって経営しているの？

滝田浩之

西日本のキリスト教書店と出版元と牧師との懇談会に参加させて頂いて、私は開口一番、「書店さんは、どうやって経営しているの？」と聞いてしまいました。実は、この問いは神学生時代から長年の問いでした。こんなこと、なかなか厚かましく聞けなかったのですが、せつかくの機会だからと思いついて頂いたのです。

私とキリスト教書店との最初の出会いは、幼稚園時代の教会バザーの北海道キリスト教書店の出先販売でした。たくさんのきれいなアドベントカレンダーとか、聖句の入ったコップとか、鉛筆とか、ネットレスとか、あまり本は覚えていませんが、他のバザーの商品が、誤解を恐れずいえば、何となく古いものであるのに際立って、その空間だけは、何だかピカピカ光っていて、高級なものを売っているという印象でした。そこで何か買って欲しくても、どうしても母は買ってくれないという思い出です。

そして書店そのものとの出会いは、札幌での高校生時代、母に連れられて行ったカトリック教会の「光明社」でした。雪道

を走って、到着すると私の記憶では平屋？の本屋さんで、本と一緒に十字架やロザリオを売っていたという映像が、かなり無理をすればひねり出すことができます。

次の映像は、大学時代に、これは何度か顔を出したこともある沖繩キリスト教書店です。赤い建物にあった記憶があります。当時、日本キリスト教団の宜野湾セミナーハウスで夜間管理のアルバイトをしていたこともあり、そこにも置き本らしいものがあつたようにも思いますが、日本ルーテル神学大学（当時）の試験のため、赤い本屋さんで本を買いに行ったのを覚えています。

その次の出会いは、日本ルーテル神学大学（当時）の水曜日だったかに、東京聖文舎の方が食堂で本を売っておられました。毎週、毎週、来てくださるので、何か買わなくてはと思いつつ、お金の方がなくて買えなかった本がたくさんありました。東京聖文舎さんとは、その後、牧師として東京に赴任した後も、今度は毎週、毎週、本を持ってきてくださるので、謝儀に見合わないペースで、本を買わされたなという思いがあります。

このように私なりに、キリスト教書店さんときあつてきましたが、唯一聞けなかったのが、「書店さんは、どうやって経営しているの？」でした。だって、そうでしょう。正直申し上げて、教会のバザーでいくら儲けるのでしょうか。ネットレス一個で、いくらあがりがあるのでしょうか。コップも聖句がなければ転売できても、聖句が入ったら、どうにもならないじゃないですか。あの札幌の書店さんも、何とも、町の中心とは言えないところに立っているわけです。札幌駅からずいぶん遠いところでしたし、住宅街にあって、それこそ品そろえが素晴らしいという感じでもありません。沖繩の書店さんは、比較的大きかったですけど、これもまた沖繩の目抜き通りである国際通りにあるわけではないのです。東京の神学校での経験でも、毎週、毎週ですよ。市ヶ谷から車で来られていたのでしょうか。何冊売っていたのでしょうか。市ヶ谷の本店を訪ねても、失礼ですけど、ごさっぱりしていると言いはない。いつもお客さんで

あふれている感じもありません。牧師になって、本を売られたと言っても、一冊か二冊じゃないですが、一冊で書店に入るマージンを考えても、市ヶ谷から車で来たガソリン代と職員の方の日当の方が高いのではないのでしょうか。このような状況を鑑みると、私の常識では、キリスト教書店さんが成り立つ基盤は見当たらないというのが正直なところだったのです。

さて、この質問に書店さんの方が、とても端的に、そしてシンプルに「ただ根性です」と応えてくださって、すべて了解した思いになりました。私たち牧師と同じなんだと心から共感しました。これからも、一緒に「ただ根性（と祈り？）」で頑張りましょう。

まばたきで紡いだ398編を精選
水野源三詩集の決定版



水野源三精選詩集 わが恵み汝に足れり

森下辰衛 選



まばたきを通して多くの信仰詩を残した水野源三。日常の中で見つけた希望を歌った作品は、今でも多くの人の心を打つ。その作品の中から398編を精選。
A5判・240頁・2730円

TOMOセレクト
好評発売中
私は私らしく生きる
水野源三詩集
《写真・朗読CD付》
森本二郎 写真 中村啓子 朗読

牧師の働きを知るための1冊

牧師とは何か

越川弘英 / 松本敏之 監修

18名の牧師が、現代日本社会における「牧師の働き」を多角的に描き出す。A5判・386頁・4,830円

瑞々しい文章で描かれる牧師の半生

良き力に守られて

一牧師の歩んだ道

村上 伸

ボンヘッファー研究の第一人者が生涯を振り返り、牧師としての人生を証しする。四六判・200頁・1,890円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp《価格税込》

http://bp-uccj.jp

『10代と歩む 洗礼・堅信への道』刊行記念対談

キリストに連なる喜びを 子どもたちに！

朴憲郁×平野克己



—どのような動機でこの本は作られたの
でしようか

平野 きっかけは十年前、私がアメリカに滞在していたときのことでした。十一歳だった娘が、W・ウィリモンの *Making Disciples* (弟子たちを作る) という非常に良い教材を使って堅信教育と堅信礼を受けたのです。その経験から、そうしたプログラム、つまり幼児洗礼を受けた子どもたちの堅信教育や、教会にいる子どもたちを洗礼へと導く教材が日本にもぜひあったらよいな、と思っていました。

子どもの受洗・堅信教育 プログラムがない日本の教会

平野 ドイツ同様アメリカも、キリスト者の多くが幼児洗礼を受けますから、青少年の堅信教育に関するテキストが充実しています。しかし、アメリカやドイツのキリスト教の影響を強く受けているにもかかわらず、日本の教会にはこうしたプログラムや教材がないように思われるのですが……。

朴 そうなのです。カテキズム(教理問答)の多くは邦訳されていますし、終戦後、教会学校教案の教材がたくさん生み出されたにもかかわらず、洗礼・堅信教育に関する教材は皆無といってもよいでしょう。

平野 なぜだろう……、と考えたのですが、その理由は、日本の教会では洗礼や堅信

そこで、教会教育が専門で、かつドイツの教会事情をご存じの朴先生にご協力をお願いし、古谷正仁先生、田中かおる先生、大澤秀夫先生、寛伸子先生とチームを作ってつくり上げてきました。

朴 私がぜひこのプログラムに協力したいと思った主な動機は三つでした。まず、教会学校で育った子どもたちが洗礼や信仰告白に導かれずに教会を卒業してしまうことと、新たなキリスト者を培っていくという意識が教会員の多くに欠如しているのではないかという危

という事柄が、青年期以降の出来事、つまり、*「自覚的」*な信仰認識に基づいて行われるものだ、と考えられる傾向にあったからなのでしょう。だから、十代前半で堅信を受けるというのが日本ではあまりなかったのかもしれないね。

朴 また、幼児洗礼を勧めたり、授ける教会が日本にはあまりないというのも大きな要因でしょう。そして平野先生がおっしゃるように、子どもは信仰告白をする年齢にふさわしくないという何らかの意識があったのでしょうか。

平野 教会学校のありかたというものは何か関係しているのでしょうか。

朴 そうですね。今はおとなと子どもが一緒に礼拝を守るということも多くなってきましたが、たいていの教会学校の礼拝はおとなの礼拝とは別になっていきます。教会学校とおとなの教会員たちというの、*「別のもの」*になってしまっているため、教会学校の後、信仰を告白することなく教会を離れてしまうという事

バックグラウンド

朴憲郁
1950年岐阜県生まれ。東京神学大学院等を経て、テューリッゲン大学神学部博士課程修了。現在、東京神学大学教授、日本基督教団千歳船橋教会牧師。



ひらの かつき

平野 克己
1962年東京都生まれ。国際基督教大学、東京神学大学博士前期課程修了。日本基督教団阿佐ヶ谷教会等を経て、現在、代田教会牧師。説教整全委員長。



機感です。二つ目は、古代から今日に至るまで信仰形成やキリスト教教育で重要な位置を占めているカテクメナート(受洗志願者教育)を、若い世代に施したいということです。この二つは、実際に牧会者としての経験と、キリスト教学的な関心からのものです。

三つ目はドイツ留学時の経験からです。ドイツでは、幼児洗礼を受けている十二〜十四歳位の子どもたちが、一年間ぐらいかけて、テキストを用いながら堅信教育を受けていました。そうしたこと

態も起こるのでしよう。

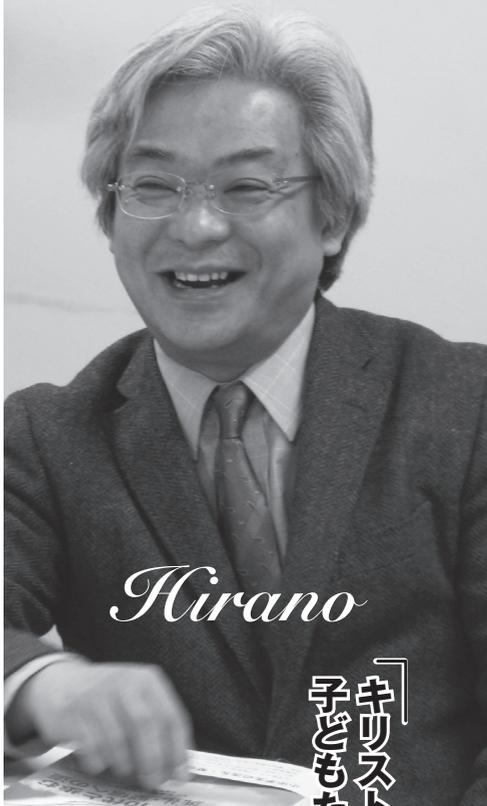
十代という年齢設定、 このプログラムの特長

平野 この本では、「十代」、特に十代前半の子どもたちに洗礼・堅信をということを打ち出していますが、この年齢設定には非常に意味が込められています。

今の大学生たちの多くは学生時代に人生を問うたり一人で教会を訪ねるといったことが少なくなりました。でも、若者たちは安心して居るわけではなく、複雑な価値観のなかに投げ出されている。

だからこそ、人生や社会と直接ぶつかり始める十代後半の前に、「あなたは教会で生まれ、イエス・キリストの愛に生きる者だ、人生で神さまがいちばん大切なのだ」という自覚を持つ機会があったらよい、と思ったのです。

その意味では、自発的な信仰告白というよりは、教会側がその子どもに「人生において大切なことが何であるか、どの



Hirano

「キリスト者になる誇り、希望と喜びを子どもたちにもってほしいです」 平野

ような価値観をもって生きていったらよいのか」を confirm (確かに) できるよ
うにすることだと考えるでしょう。

こうしたことが意識されているのも、このテキストの特長と言えるでしょう。

朴 特長ということが出ましたが、このテキストの特長は、主に五つあると思います。一つは、聖書的であるということです。「礼拝」「教会」といった各テーマに沿った聖句を挙げてそれを読み、また「ルカ福音書日記」によって、一つの福音書を通読します。二つ目は、教理的である

ということ。キリスト教信仰の骨格ともいえる「聖書」「十字架と復活」といった重要なテーマが扱われています。三つ目は教育的であるということです。プログラムにおけるセッションやアクティビティーが子どもの感性や興味に寄り添うように展開されています。四つ目は、霊的な点です。つまり、単なる知的作業だけではなく、祈りを大切にしていくということです。五つ目は、共体的、すなわち、教会共同体全体が志願者に関わっているということです。

平野 そうですね。特に五つ目の「共体的」というのは重要だと思います。今までは、志願者教育という牧師が為すものであり、信徒が関わるということがありませんでした。しかし、このプログラムでは教会共同体、特に信徒が志願者教育に関わるようになっていきますし、教会員へのインタビュ어나聖餐式を執り行う礼拝への参列といったセッションを通して、志願者が共同体に組み入れられていくという過程が組み込まれています。

カテキストって？
どのようにセッションをする？

朴 信徒がカテキスト(志願者教育の導き手)になるというのは、日本のプロテスタント教会にとって初めての試みといってよいでしょう。志願者教育を信徒が担うというこ

とも説者は驚かれるのではないでしょう。でも、古代教会をみても、教職・聖職者ではない信徒がカテキストとして教理教育を担うことがあったのです。

平野 志願者を洗礼や堅信へと導く「カテキスト」に牧師ではない信徒がなる、という「とてもそんなこと私には……」や「信徒がそんなことをしてよいのですか」という疑問も湧いてくるでしょう。たしかに、洗礼や堅信に導くとなると緊張するでしょう。でも、どうか安心感をもって臨んでいただきたいと思います。

おそらく、カテキストにとっては志願者を導く経験だけではなく、このプログラムを通して自分も共に学び、神によって導かれていくという経験をする機会にもなるのではないのでしょうか。

朴 そうですね。いずれにせよ、牧師やそ

カテキストは、志願者を導くということはどうか恐れなくください

朴



Park

他の信徒も祈りや実際のな助けをもって志願者やカテキストに連帯し、協力していただきたいですね。そして、できるならば、家庭のなかでも子どものために祈り、洗礼・堅信教育の一部分を担ってほしいと思います。

平野 カテキストの選び方というのも、牧師が指名する、長老会が選任するなど、教会によって違ってくるでしょう。

また、この本を使うカテキストも「テキスト通りにやらなくては」というのではなく、各教会によって状況も異なっ

くるでしょうから、応用をきかせて使っていただきたいです。

カテキストには志願者を導くという大切な役割がありますので、同じ使命を担った者同士で、セッションにおける経験や喜び、そして悩みというものを共有することが必要となるでしょうし、牧師ともコミュニケーションをとりながら、プログラムを進めるのがよいでしょうね。

朴 実際にセッションをするときには、いくつかセッションをするかということも課題となります。教会学校に出席している子

教会に連なる10代、特に小中学生への洗礼・堅信(信仰告白)教育教材

10代と歩む 洗礼・堅信への道

朴憲郁／平野克己 監修

大澤秀夫／笈 伸子／田中かおる／古谷正仁

好評
発売中

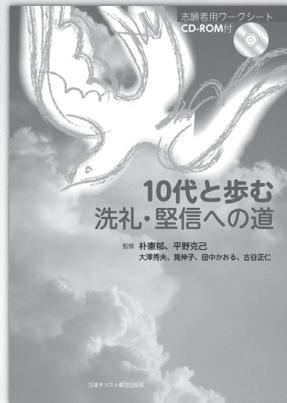
本邦初、洗礼・堅信準備のためのガイドブック
だれでも実践できる多彩なプログラムが充実!!
福音を次の世代の子どもたちに伝えるために

10代の洗礼・堅信志願者が、楽しめるように工夫された
参加型プログラム。礼拝堂ツアーや教会員へのインタ
ビュー、工作なども交えながら、洗礼・堅信の準備を
進める。カテキスト(導き手)のためのわかりやすい教理
の説明、洗礼・堅信の意義、志願者のケアなども掲載。

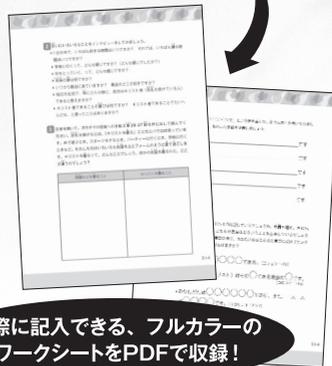
B5判 並製・144頁・2,100円

プログラム内容(全15セッション)

- ❖ 1 キリストを着よう—キリスト者になる
- ❖ 2 聖書—これはわたしたちの物語
- ❖ 3 礼拝—わたしはここにいます
- ❖ 4 父なる神—天地を造られた方
- ❖ 5 イエス・キリスト—最大のプレゼント
- ❖ 6 十字架と復活—最も大いなる奇跡
- ❖ 7 聖霊—いま生きて働く神
- ❖ 8 教会—不思議な、けれども世界共通の集まり
- ❖ 9 聖徒—教会の人たちと話してみよう
- ❖ 10 罪の赦し—罪の力からの解放
- ❖ 11 死と体のよみがえり—主の再臨
- ❖ 12 洗礼・堅信—新しく生きる
- ❖ 13 聖餐—大切な食事
- ❖ 14 祈り—神さまと話そう
- ❖ 15 信仰の旅を始めよう



志願者用ワークシート
CD-ROM付



実際に記入できる、フルカラーの
ワークシートをPDFで収録!

本書を用いて
セミナーを
開催します!

10代を信仰へと導くためのセミナー

2013年6月29日(土) 14:00~16:30 日本キリスト教会館4階(東京・早稲田)
講演講師: 朴憲郁 ワークショップ講師: 平野克己 詳しくはホームページをご覧ください

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL 03-3204-0422 FAX 03-3204-0457
ホームページ <http://bp-uccj.jp> Eメール eigy@bp.uccj.or.jp 《価格は5%税込》

子どもたちに配慮し、少なくとも教会学校の
時間はさけるべきでしょう。
**十代の教会員を迎えて、
教会共同体が変えられてゆく**

朴 実際に志願者が洗礼や堅信に至り現住

陪餐会員となった場合、教会側が考えな
ければいけない課題も当然出てきます。
教会の中での務めや責任、つまり、月定
献金や教会総会のやり方を含め、どのよ
うに十代の志願者を迎えていくかを教会
が改めて考えなければならぬというこ
とです。

平野 そうですね。多くの教会の現状が、
子どもの受洗者というものを考えない組
織や運営となっているかもしれませんか
ら、子どもを迎え入れることによって、
教会共同体自体が変わる必要が出てくる
ことでしょう。

十代前半の子どもたちが、「教会って
大変だし面倒だな」ではなく、「ここに神
さまの教会があるんだ!」と思えるよう

な、希望のある教会となるためにはどう
すればよいかということ、役員会や長
老会などが子どもの視点に立って十分に
討論していただきたいと思えます。

朴 そのことによって教会もさらに豊かに

されてゆくことでしよう。老若男女を超
えて、共にキリスト者であることの恵み
を感じられるとよいですね。

平野 キリスト者になることによって、苦
しいことや悩みも出てくるでしょう。し
かし、それ以上に、イエス・キリストに
生き、死んでいくというのは何にも増し
て幸せなことです。

また、キリスト者になるということは、
本当の意味で国際人になるということでも
あります。世界中に、同じように「イ
エスがキリストである」と信じる兄弟姉
妹がいるからです。そうした一員に自分
が加えられるっていく喜びを子どもたちに
味わってほしいです。

W・ウィリモンに日本の教会の話を
した時、彼は「Don't be afraid to become a

minority」(マイノリティーになることを
恐れなくて!)と言いました。その言葉
をこれを使われる方々にも贈りたいと思
います。

日本においてキリスト者になるという
ことは、一種のマイノリティーになるこ
とです。でも、そこに貫かれている価値
観は、二十年三十年で培われたものでは
なく、二千年もの間人々を突き動かして
きたものです。まことの真理、時代や文
化・民族を越えた価値観を自分も持つと
いうこと、こんなに幸せなことはありません
でしょう!

朴 洗礼や堅信によってキリストの体に連
なるということは何か遠くにあるのでは
なくごく近くにあり、私たちは常にその
ことへの招きを受けているのです。その
ことを、ぜひまず志願者である子ども
の親やおとなの信仰者たちに自覚してもら
い、喜びを感じながら子どもたちと共に
歩んでいただければ、と願っています。

かなりの通でも新発見があるはず
山下智子著

新島八重ものがたり



坂本清音

著者山下智子の現職は新島学園短大の准教授であるが、前職は新島八重の故郷、福島県会津若松市にある会津若松教会牧師であった。その教会は、彼女の就任当時すでに一六六年の歴史を持つっており、そこで最初の洗礼式を行ったのは、八重の二番目の夫となる新島襄であった。その教会に、著者は「最初の女性牧師」として赴任した。そのことは、すでに山下智子が新島八重伝を書くのにふさわしい条件を二つ備えていたことを示唆している。その上、著者の立ち位置は、徹底して八重の「故郷」にあると言える。しかし、著者の視点は、八重をただ会津の女性・戊辰戦争時の烈女として描くのではなく、その後京都に出てクリスチャンとなった八重の生き方を斟酌した上で、もう一度郷里に戻して生かしてみよう、というスタンスである。

さらに、八重伝を書くに当たっての著者の資質を、私は本書の「はじめに」の中に垣間見る。すなわち二〇〇二年、彼女が会津若松教会に赴任した時の状況を以下のように語っている。教会の方たちがわたしを牧師として招くと決断するには相当の勇気が必要でした。わたしは牧師としてその招

きを受けるのにもやはり相当の勇気が必要でした。そんな時にわたしの勇気を奮い立たせてくれた一人の女性がいます。新島八重です。

この文章の中で読み取れる著者の姿勢は、①いつも状況を判断するに当たって必ず両方の側に身を置いてみることに、しかも決して上から目線ではなく相手と対等の立場に身を置いて、まず相手の気持ちを慮って考えることであり、②もう一つは、いったん決断をした後は、迷わず自分の決めた道を突き進んだ八重の気質を、DNAとして著者も持っていることである。

評者は、本書のタイトル「新島八重ものがたり」という命名のふさわしさにも納得する。山下智子には、同じく日本キリスト教団出版局から出ている『こひつじたちのあいうえお』という著書があるが、池谷陽子のほのぼのとした絵と共に伝わってくるのは、何とも言えない温かさ・優しさであり、ストーリー・テラーとしての心配りである。「物語る」には必ず相手が必要。しかもその相手に相応しく語り掛けることが大変重要である。そのスタンスが『新島八重ものがたり』でも貫かれてお

り、読み手は素直な気持ちになって、著者が伝えようとする等身大の新島八重像を、共感しつつ受け入れることが出来る。

そのことと著者の立ち位置が、八重と襄の郷里、福島と安中に位置していることがこの著作のメリットをさらに大にしている。NHKが大河ドラマに新島八重を取り上げることが決まって以来、実に七、八〇冊の、いわゆる「八重本」が出版されたと聞か、もともと八重に関する資料は極端に乏しいこともあって、殆どの書に共通して引用される八重関連のエピソードを並べて、思いつくままに解釈を加えているに過ぎないなあ、と思わせる書物に出くわすことがままある。それとは対照的に、著者は東北地方を精力的に歩き回り、そこで収集された資料を紹介しつつ八重を描いているので、かなり通になっている読者にも、こんな史実もあったのか、八重さん関連のものがこんな所にこんな形で残っていたのかと驚かされ、それが新しい八重像を組み立てるのに大いに役立つ。言い換えると、本書には新

発見が散りばめられているのである。

八重の生涯は、最後まで会津の女性であって、クリスチャンとは名ばかりであったと評されることがよくある。しかし、本書の中には、今回、郷里の会津や安中で発掘された、八重の遺した墨跡を含む数多くの聖句に基づく「言葉」と共に、著者が母校同志社所蔵の資料や卒業生の証言等を丹念に精査して得た、クリスチャン八重を髣髴させる幾つもの記事が紹介されている。その上で、最終章で、「自分らしく生きた」八重の特徴として、『武士の心』がなくなったわけではないが、『信者の心』が大きく育っていた。しかも、それを故郷の人々にも伝えようとするまでになっていた（二九一―三〇頁参照）とする纏めの言葉には、クリスチャン八重の真骨頂が表現されていると言えよう。

（さかもと・きよね 同志社女子大学名誉教授）
（四六判・二四六頁・定価一五七五円（税込）・日本キリスト教団出版局）

好評発売中！

渡辺善太著作選④
好評発売中！

宗匠様とその周辺 ― センタゴン・ギャラクシー 早川敏
正典の聖書解釈と説教
渡辺善太における現象学的態度
小林和夫

1 偽善者を出す処
2 聖書論 ― 聖書正典論
3 現実教会の福音的認識、他
4 わかって、わからないキリスト教

好評発売中！
◎、八〇〇円（税込）
次回聖書予定
近目配未予定

ヨベル新書 015

齋藤孝志 ● 著 応答：小野寺 功

キリストの体である
教会に仕える
エフェソ書に徹して聴く

*新書判・224頁・1,050円（税込）

最新刊

82歳の鮮烈な瑞々しい珠玉集！

近藤蓉子 ● 著

虹の橋

少年の「おはようございます」の声、庭の蛙の傷ついた姿、北国の夏の海に浮かぶ鳥賊つり舟の灯、祭りの笛太鼓の音、母の面影。泣きたいような郷愁と哀惜。それらは「主よ」という祈りへと取返し――。詩、短歌、随筆で認められた静謐なる回顧。*46判・164頁・1,050円（税込）

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

日本のプロテスタントの源流はここにある！
ヨハネス・ヴァルマン著
梅田與四男訳

ドイツ敬虔主義
宗教改革の再生を求めた人々



川端純四郎

「ドイツ敬虔主義」と言われても身近な問題と感じる人は少いかもありません。しか本当はそうではありません。なぜなら私たち日本のキリスト者とドイツ敬虔主義は非常に近い親戚なのです。

日本のキリスト者の大部分はピューリタンの子孫です。幕末から明治にかけて、日本に福音を伝えた米国の宣教師たちの多くはピューリタンでした。そして、その米国のピューリタンのドイツ版がドイツ敬虔主義なのです。

両者に共通のキーワードが「敬虔」です。日本のマスコミにキリスト者が登場する時には、必ず「彼は敬虔なクリスチャンで」という枕詞がきます。私たちは、そのたびに自分を省みてくすぐったいような思いにとられます。しかし「敬虔」は、私たちが明治の宣教師たちから受け継いだ貴重な遺産です。

「敬虔」の本身は、世間から見れば「禁酒禁煙」ということです。それは表面的なことにすぎません。私たちクリスチャンにとっては、まず第一に聖書を読むこと、教理よりは聖書が

大切なのです。第二に祈ること、朝に祈り夕べに祈り、神との交わりに入ることに、第三に伝道に励むこと、救いの喜びを伝えずにはいられないこと、第四に日曜礼拝厳守、万難を排して礼拝を守ること、第五に一夫一婦制に示される性のモラルを厳しく守ること、そしてすべての基本は「福音にふさわしく日を過ごす」ことであり「人に従うよりは神に従う」ことでした。

このような「敬虔」は、性のモラルのように性愛を異性愛に限定するという偏狭さも含んでいましたが、全体としては、日本の社会に良心にのみ従う個の確立という重要な問題提起を行い、思想・信仰の自由を求める自由民権運動や、女性の解放、廢娼運動など、さまざまな面で大きな役割を果たしました。

これらは、すべてドイツ敬虔主義にも共通する特徴です。もちろん違いもあります。一番大きな違いは、ドイツではルター派教会が国教会だったことです。すべての住民がキリスト者であり教会員であるという立前に対して、敬虔主義者たちは、真に目覚めたキリスト者だけの小グループを教会内に形成します。

「教会内教会」と言われるこの小グループの形成がドイツ敬虔主義の最大の特徴です。

硬化化した国家教会に対して、信仰の覚醒を求めた敬虔主義の運動はドイツの歴史に深く広い影響を与えました。ゲートもカントもシュライエルマツヘルも、さらにはクレツパーもブルトマンもボンヘッファーも敬虔主義の家庭に生まれた人たちです。

本書は、そのようなドイツ敬虔主義の歴史と信仰を、その源流からヴェルテンベルク敬虔主義まで、代表的な人物を取り上げてたどったもので、現代ドイツの代表的な敬虔主義研究者であるヴァルマンによるスタンダードな教科書と言って間違いありません。歴史の順に記された人名辞典のような内容なので、座右に置いて必要な時に該当の項目を読むというような使い方もできます。

バルト神学の安易な受容の結果、敬虔主義は人間中心主義だというような一面的な理解が行われて、私たちの信仰のルーツがおろそかにされるのは残念なことです。本書が広く読まれることを期待します。

欲を言えば、ヴァルマンの視点が教会史に限定されていて、社会経済史的な視点が欠落していることです。特に近年は、女性史、人権史の視点から敬虔主義の再評価が進んでいますので、その面からの補足が望まれます。翻訳は直訳調ですが、通読するのに差し障りはありません。一一九頁一〇行目の「マールブルグ」は「マゲデブルク」のケアレスミスと思われれます。訳者のご苦勞に感謝します。

(かわばた・じゅんしろう) 『礼拝と音楽』誌編集長
(A5判・三三三頁・定価五八八〇円〔税込〕・日本キリスト教団出版局)



フィンランドの木造教会を訪ねて

竹内 皓 著

●A4判上製 ●定価4,200円

13年間の現地での研究成果を纏め、2009年に帰国して以来、フィンランドへの思いがつのるばかりだった私は、この国の、素材で美しい代表的な木造教会を日本に紹介したいと考えようになりました。フィンランドでは国民の約78%が、現在も敬虔なルター派に属しています。ここで紹介する木造教会は、彼らの篤い信仰に支えられ、進化、発展したものです。本書では、17世紀から19世紀までのフィンランドの古い木造教会の中でも、当初の姿をより良く残している例を取り上げました。教会を知り尽くした著者撮影による48頁のカラー写真は必見。

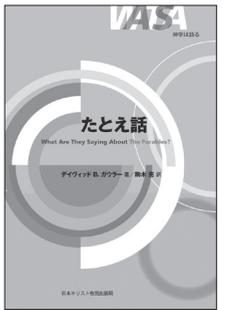
LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

「たとえ話」をめぐる神学的議論を、整理して提示

デイヴィッド・B・ガウラー著
駒木亮訳

神学は語る
たとえ話



木原桂二

本書は、私たちにとって親しみやすいイエスのたとえ話に関する過去の研究成果を一望できる有益な手引書である。

著者デイヴィッド・ガウラー氏（エモリー大学教授）は歴史的批判的研究を始めとして、社会学や文学を含む様々なアプローチを試みる新約聖書学者である。本書には、そのような著者の学識の豊かさが反映されている。

第一章では、歴史的批判的アプローチによるたとえ話研究の成果が紹介される。共観福音書のたとえ話は、各著者の編集の手が加わっているため、史的イエスの意図がそのまま映し出されたものではない。それゆえ、史的イエスと共観福音書のたとえ話の相違をどう捉えるかが近代以降、研究の課題となった（ユリッヒャー以降）。

具体的には、編集作業の痕跡を削ぎ落とせば史的イエスの意図を浮かび上がらせることが可能であると推測されてきた（ドッド、エレミアス）。あるいは反対に、福音書著者の編集意図を明らかにする研究も行われてきた（カールストン）。しかしこれらの研究では、たとえ話の問いかけに対して実存的な応答をす

る読み方には至らない。その方向からの新たなアプローチが模索されるようになっていった（フックス以降）。

その課題は、第二章、第三章のテーマである文学的アプローチによる研究へと受け継がれ、発展していく。イエスのたとえ話は差し迫った終末の中で示された預言者の「啓示」のように、聴衆の決断に働きかける実存的ドラマである。そのイエスの信仰的ヴィジョンを文学的手法によって研究する必要性が主張されるようになった（ワイルダー、ファンク）。その上で、たとえ話を独立した文学作品として考察することも提唱された（ヴァア）。こうして、たとえ話研究において、「隠喩」としての文学的効果が模索されるようになる。

本書は、これらの文学的アプローチの発生を重大かつ大きな転換点と捉えた上で、たとえ話研究のさらなる発展的経緯をまとめ上げること尽力している。第三章におけるクロツサンを紹介を皮切りに、たとえ話の対話的・創造的側面を浮かび上げらせる研究の数々が著者によって紹介されていく。

第四章から第六章においては、たとえ話のユダヤ的文脈、へ

レニズムの文脈、社会的文脈という古代文化を手掛かりにした考察の数々が紹介される。最終章となる第七章では、第二章と第三章で明らかにされたたとえ話研究の決定的転換の意義が「神の国」に関する議論によって説明できるとされ、ペリンの考察を手掛かりに論証される。読者は、たとえ話についてのより一層の深い洞察を与えられるに違いない。

さて、以上述べたように、本書はたとえ話を読むという簡単そうに見える作業がいかに困難な課題を抱えたものであるかを教えてくれる。共観福音書の著者は、イエスの意図を正しく伝えてくれているのか。たとえ話を、それ自体で独立した物語として読むべきなのか。それとも福音書全体の文脈を踏まえた上で読むべきなのか。たとえ話の背景となる二千年前のパレスチナはどんな状況だったのか。

多くの研究者たちが、これらの問いに答えるために、ありとあらゆる学問的知識と方法論を駆使してたとえ話と格闘してきた

た。イエスの真意を正しく知ろうとする試みから、たとえ話の問いかけに応答し、その意味を新たに創造しようとする試みに至るまで、実に多様な立場があることを、評者は本書から教えられた。本来なら、これほど幅広く、また深みのある研究内容を一冊の本で知ることができないであろう。しかも本書は、各学説の取り上げ方が公平であり、決して一つの立場に肩入れするわけではない。イエスのたとえ話に限らず、「たとえ話」というジャンルに関心のある方にはとっては、まさに必読の書と言える内容なのである。

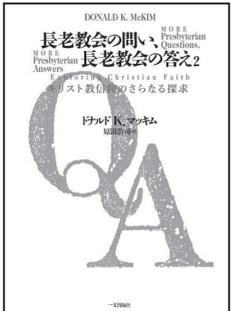
このような魅力を持つ本書が日本語訳として出版されたことを嬉しく思う。わかりやすく丁寧に訳出して下さった駒木亮氏に心から感謝を申し上げたい。本書が、牧師や神学者だけでなく、聖書を愛する多くの方に読まれることを願っている。

（きはら・けいじ）北山バプテスマン教会牧師、関西学院大学非常勤講師
（A5判 二〇二頁・定価二七三〇円（税込）・日本キリスト教出版局）



長老教会の問い
長老教会の答え

キリスト教信仰のさらなる探求
ドナルド・K. マッキム
原田浩司【訳】



マッキムの長老教会シリーズ第三弾！

新たな「問い」に、
前著で取り上げた「問い」にも
視点を変えて、
わかりやすく答える。

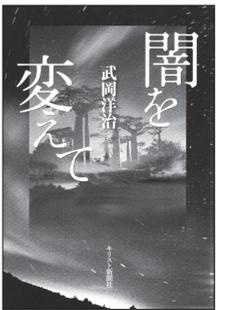
A5判
定価 2,100 [本体2,000+税] 円
ISBN978-4-86325-053-6



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「闇」に突き落とされた人々の励ましとして
武岡洋治著

闇を変えて



岩橋常久

武岡洋治さんとの最初の出会いの場は同志社大学神学部の教室です。その時、武岡さんは「私は長い間大学の教員でしたが、それよりも長いのは、教会学校の教師歴です」と自己紹介されました。二〇〇三年、名古屋大学農学部大学院教授を停年で退官された春に、御自身の環境失明の原因とその社会背景を神学的に考えるために一大学院生になられたのです。目がご不自由なのは、メガネをかけた上にルーペで講義レジュメをなめるように読んでおられたことからわかりました。目の不自由は、一九九二年に、農業に及ぼす砂漠化の問題を調査するためにスーダンに行かれたおりに発症した病気が原因です。その病気は、マリヤの予防薬ファンシダールの副作用によるものでした。つまり、著者は被害被害者です。一時は完全な失明状態のなか、顕微鏡が欠かせない研究者としての道を閉ざされ精神錯乱に陥られました。そこから立ち上がって行かれる霊的・精神的・身体的過程は、これまでに出版された四冊の本に詳しく読むことができます。そのうちの一冊は神学修士論文を含む『打たれた傷によって』（キリスト新聞社刊）です。大学院修了後は、同志

社在学中から担当しておられた名古屋学院大学での「キリスト教と生命」の講義に加えて同志社大学神学部で五年間「生命と環境」と「食・農・環境とキリスト教」を講義されました。また母教会である日本基督教団安城教会の牧師として、二〇〇九年末までの六年間、働かれました。

武岡さんは、農学の清水助教（当時）との出会いから信仰に導かれ、安城教会牧師であった村上伸氏より洗礼を受けられました。その頃からボン・ヘッファー、鈴木正久の神学を学ばれています。キリスト者の農学者として、困難に直面する農村の問題に取り組み、農の問題を宣教課題とする教会の働きに関わられました。また一九八五年から一年間、国際協力事業団からボリビアに派遣されて、大学農学部の再建と農業指導の働きをされた時には解放の神学が生まれてくる社会状況を経験しておられます。農学者だから当然なのかも知れませんが、武岡さんは基本的に現場の人であり、信仰的思索も現場から始められます。言うまでもなく、著者の根源的現場は、薬害によって死線をさまよい、生還後も絶望の淵を歩き、現在も「視覚障害四級」

の身であるということにあると思います。

しかし、本書は、闘病記でも社会復帰の奮闘記でもありません。標題は「闇から光へ」ではなく、『闇を変えて』です。それは、本書が国内やスーダンの失明した子どもたちの支援活動で経験された問題と取り組み、その問題に直面している人々のつながりから考えられた文書や講演、説教、報告からなっているからです。標題には、薬害発症以来、著者を励ましてきた人々と「伴走者主イエス」（二七頁）とに支えられた主体的な意志が現れています。著者は、「闇」を大学受験失敗、愛する子の早世、病気による挫折（この三つを著者自身経験しておられます）、事業の倒産、失職などの「人間の問題」として捉え、とくに「私にとって闇を光に変えることは、薬害失明の再発を防ぐこと、その対策を確立することである」（二二頁）といわれます。著者はその活動を、薬害によって失明した本人とその家族に連帯した活動や、スーダンの盲学校や難民キャンプ

の子どもたちの支援にまでひろげられています。本書の大部分は、その支援の具体的な報告と思索で埋められています。そこには宗教の違いを越えて、尊敬しあい、協力し合う人々や内戦の混乱のなか苦闘しながら生き抜く人々の人間ドラマが描かれています。本書が、「闇」に突き落とされた人々の励ましになるように広く読まれることを願ってやみません。

（いわはし・つねひさ）日本基督教団紅葉坂教会牧師
（四六判・一三六頁・定価二二〇〇円（税込）・キリスト新聞社）

訂正 本誌四月号に掲載されたリチャードソン『仕事と人間』の書評者のお名前を誤記してしまいました
誤 井田昌之
正 井田昌之
謹んでお詫びし、訂正いたします。

編集部

キリスト新聞社のDVD
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.
▶ 説教を学ぶ最良の教材！
好評発売中！

3枚組

DVD 日本の説教者 第1巻

平野克己、関谷直人 ● 責任編集解説

季刊誌「MESSAGE」（キリスト新聞社）の創刊と共に誕生し、本邦初の試みとして大変好評いただいたシリーズ「日本の説教者」がDVDセット全二巻として蘇ります！

収録説教者
Disc ① (74分) 加藤博昭 (説教塾 主筆)、
深田未生 (同志社大学名誉教授)
Disc ② (66分) 榎原康夫 (日基督教改革派東京総会
教会名誉牧師) (〇二一年七月逝去)
雨宮康 (上智大学神学部教授)
辻祐子 (日本基督教団隠岐島牧師)、
加藤博道 (日本基督教団東北教区主教)

「第1巻」(DVD4枚組)は
2013年夏発売!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格に税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

ヨハネの魂の鼓動を伝える熱い説教
及川 信著

盲人の癒し・死人の復活
ヨハネによる福音書 説教と黙想



並木浩一

イエスとは誰か。ヨハネ福音書はそれに端的に答え、読者に確信を与える。ルターは共観福音書にまさってヨハネが福音の神髄を伝えると推奨した。バルトは『教会教義学』の執筆に入る前のトンネル体験の時期にヨハネ福音書と取り組んで、部屋が回り出すほどの驚きを経験し、ナチスとの対決の危機の中でヨハネ福音書の二度目の講義を行った。

ここにもヨハネ福音書で生き返った現役牧師がいる。及川牧師は人の言葉も信じられなくなって魂が闇に落ちた最中の大学一年の時、一〇章の「わたしは羊のために命を捨てて」という一句に出会い、羊のために自分を犠牲にする方がおられたことを突きつけられ、電撃が走った。イエスの愛に感動して受洗、その後献身して東京神学大学に入学、左近淑、松永希久夫教授から深く学んだ。日本基督教団中渋谷教会に招かれた牧師はヨハネ福音書に差し向かい、松永教授の講義に出席、ヨハネ関係の研究論文をすべて借り出して詳細に検討した。万事徹底した熱意の人である。松永教授はある時、この人に食いつかれたら骨まで噛み砕かれると、及川牧師を紹介したという。

松永教授が二〇〇五年十月に帰天、葬儀司式者の任務を終えた直後の日曜日から、及川牧師は弔い合戦のようにして、ヨハネ福音書の講義説教に入り、百三十四回を費やして終了した。執念の取り組みである。本書はこの講義説教の中からヨハネ福音書の中央に位置し、内容的にも福音書の中核的テーマを展開したイエスの第六のしるし「盲人の癒し」、第七のしるし「ラザロの復活」を記した九章と一一章とその前後を取り上げた説教十七編、および「黙想」三編を収録する。

この講義説教は十分な研究を基礎とするが、研究は説教にとつての堆肥に過ぎず、説教はみ言葉に触発されて自在に展開され、イエスの贖罪への感謝が明確で、聴き手の心に深く食い込む。ヨハネ福音書の言葉が常に前後の文脈に関連するのに対応して、講義も行きつ戻りつを繰り返すが、そのたびに福音の理解は深まる。他の書物での記述がしばしば参照される。たとえば九章一一節。盲人の目が「見えるようになった」の動詞が「再び見えるようになった」とも訳せるので、説教者は最初の夫婦が木の実を見て食べ、見るべきものが見えなくなった事件を視

野に据える。独創的な気つきである。人は戒めから目を背けて神が見えなくなる。イエスが人々から「身を隠す」(八・五九)ことの本質がここに顕れる。

この福音書はイエスの出来事をドラマ仕立てで語るが、復活したイエスを聖霊によって見ることが出来るヨハネ教会の現在を意識した奨励であることを隠さない。臨機応変の語りを得意とする及川牧師がヨハネの重層的で自在な語り方に倣うのは当然であろう。教会員の信仰がしばしば紹介される。それは自己に及び、人も愛も信じられなくなった大学一年のときの苦悩を書き連ねた詩文が読まれる。しかし自己を語る嫌みを感じられないのは、自己を精神的な盲人、魂の死者の一人として位置づける姿勢が明瞭のゆえであろう。

ラザロの復活ではドストエフスキの『罪と罰』が効果的に用いられる。ソーニャはこの箇所を読んでくれとせがむラスコリニコフに、「だってあなたは信じていらつしやらないじゃ

ありませんか」と応ずる。その言葉は、罪に落ちて死者同然となった者の現実を照射し、見ずして信ずることを人々に求めるヨハネの意図を浮かび上がらせる。読者は九章、一一章の主題の本質に光を当てる説教者の語り口にジャストミートの快感を覚える。

最後にこの説教集の性格を語る言葉を引用しておきたい。「説教は、語る側の深さと聴く側の深さがあり、そこに聖霊の導きがある時に、無から有を造り出す神の言となる」(七一―七二頁)。至言である。本書は読者のみ言葉の深みへと招待する。

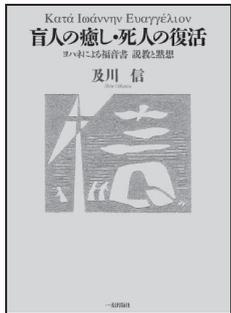
(なみき・こういち 国際基督教大学名誉教授)
(四六判・三二二頁・定価一九九五円(税込)・一麦出版社)



盲人の癒し
死人の復活

ヨハネによる福音書 説教と黙想

及川信
Shin Oikawa



ヨハネ福音書を愛した新約学者
松永希久夫の教えに基づく
「釈義と黙想」から生み出された
綿密な講義説教。

二つの奇跡は、
あなたに、
何を語りかけているのか。

四六判
定価 1,995 [本体1,900+税] 円
ISBN978-4-86325-054-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

福音とは——現代世界の課題に応える信仰と宣教の証言

渡辺英俊著

私の信仰Q&A キリスト教って何だ？



大倉一郎

本書の中扉裏に「なか伝道所創立二五周年を記念して」とある。日本キリスト教団なか伝道所の二五周年とはどのようなのであったのだろうか。ほぼ道半ばの二〇〇一年に著者の記した言葉が思い起こされる。

そこ（被収奪地域、いわゆる『第三世界』）では、収奪地域（いわゆる『先進諸国』）全体、とりわけそのキリスト教に向けて厳しい問いが突きつけられている。それは、被害者に死をもたらしような収奪の仕組みに乗ったままの口から、「場」や状況と関わりなく抽象的に語られる「福音」とはいったい何なのか…という問いである。

（『旅人の時代に向かって 二十一世紀の宣教と神学』）

この「福音」とはいったい何なのか…という問いを先ず自らに問い、横浜・寿で移住労働者との連帯の闘いに四半世紀取り組み続けた、その共同体の信仰の告白として、本書は生み出されたことであろう。

本書は一間一答形式でキリスト教信仰の要諦を明快に語る。

しかし、頭だけの理解で解るとか、違うのでは、と考えるだけでは、本当にしっかり読んだとは言いがたい。単にキリスト教早わかりと受けとめると、パッケージ・メッセージで何が分かった気になるという罠にはまる危険をもつ。もとよりパッケージ・メッセージとして受容されることなど、本書の著者の意図しないところであろう。それと同時に本書のQ&Aは読者にとって自己言及のことばとして読む必要がある。読者もまた現代世界に生きる自分がどのような社会性と生活の座に身を置いて、著者の答えに対して、自分自身についてどう考えるのかということである。そういう課題を読者に突きつける本である。

本書の内容に触れておく。第一部聖書・キリスト、第二部神・人間、第三部罪・解放、第四部教会・神の国のパートに分けて各部に三〇〜四〇問、全体で一三四問のQ&Aを設定している。筆者にとつての圧巻は第三部だった。とくに次のQ&A。

Q八四 罪は人間の社会と文化の根源にあるものなのですか。

解放され、他の人の苦しみにまず関心を寄せる気持ちになれるのです。愛に向けて解放されるのが、信仰の実りなのです。

冒頭に引いた著者の「『福音』とはいったい何なのか…」という問いに対する答えの核心の一つがここに語られているのではないだろうか。二十一世紀に収奪地域のキリスト教の踏み出すべき宣教の道が示唆されていると思うのだが。そのようなことを意識しながら読み始めてはどうだろうか。

ともあれ、まず本書を開いて味読していただきたい。本書に至るまでの二五周年に著者は批判的聖書研究を踏まえたメッセージ集と神学の著書を書してきた。いずれも現場で信仰を心身（けっして「心」や「信仰」という名の観念）だけでなくもって考えた（生きた）「実践の批判的ふりかえり」とも言うべき書である。本書の性格に鑑みてそれらのいづれかと併読することを薦めたい。実践に裏打ちされた書は、書齋ではなく、生の現場に携えて読むことに耐えられる。

（おくら・いちろう「フェリス女学院大学文学部准教授」
（四六判・一八八頁・定価一〇五〇円（税込）・ラキネット出版）

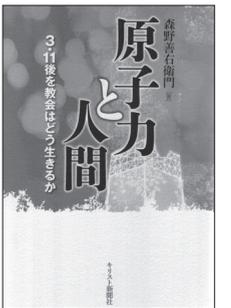
A八四 そうです。アダムとエバの神話は、人間社会の始祖である二人がいっしょに禁じられた実を食べたと語っています。これは、罪が人間社会の根底にあるものだと言おうとしているのだと思われます。また、カインとアベルの神話では、兄のカインが弟のアベルを殺し、そこから人類の文明が始まったと伝えていきます。現実の社会は、強い者が弱い者から奪い取るための仕組みになっており、文化は、そういう社会のあり方を支えるものになってしまっています。人の分を奪って自分のものにする仕組みと、それを支える文化が罪なのです。

著者は罪の理解を抽象化しないし、歪小化しない。日本の現場で解放の神学を模索してきた著者の深い洞察が窺われる。

Q一一〇 人を愛せない罪人は救われないのでしょうか。
A一一〇 人を愛せても愛せなくても人間は罪人です。そして、人を愛せても愛せなくても、すべての人が神の愛によって救われるのです。だから、わたしたちは神の愛にすべてを委ねることによって、自分の救いについて心配することから

なぜ日本の「神学者」は沈黙しているのか？
森野善右衛門著

3・11後を教会はどう生きるか 原子力と人間



小海 基

本誌の読者の皆さんもおそらく私のように、あの「3・11」の震災以来この二年近く、「神学者たちはなぜ沈黙し続けているのだろうか？」と、忸怩たる思いを抱き続けていたのではないかな。なるほど玉石混合ではあるが、あの日以来おびただしい書物が出版されている。被災者、ボランティア、原発技術関係者、社会学者、哲学者、建築家、評論家…と、読み応えのある発信が届いている。書物ばかりでない。毎週金曜日ごとに静かな「反原発」デモが国会周辺を取り巻き、俳優山本太郎は「脱原発」を公然と発言し仕事を干されながらも、我が杉並区から衆院選に立候補し善戦の果てに落選している。あの政治的主張に対して徹底した自粛を強いる「NHK紅白歌合戦」においてさえ、歌手斉藤和義がギターのストラップに英語で反核メッセージを記していた。映画監督の園子温も「もはや（震災も原発事故も）無かったかのように作るのは映画人として正しいこととは思わない。無理にでも取り込まないと今を生きる映画人として許されなと思った。…叫べ、若者よ！」（メイキングフィルムでのインタビュー）と、一年たたないうちに「ヒミ

ズ」「希望の国」を発表し、世界的に評価を受けている。それに比べて「神学者」はあまりにも沈黙していないか？ 隣の韓国から既に出された『基督教思想』編『原子力とわたしたちの未来——韓国キリスト教の視点から』（かんよう出版、二〇一二）の大変に激しい言葉の数々を読みながら、日本の「神学」界はどうなっていると怪訝に思ったのは筆者ばかりではあるまい。

告白すれば私の属する日本基督教団こそが他の教派に突出して及び腰である。震災後の一月八日に日本カトリック司教団が「いまずく原発の廃止を——福島第一原発事故という悲劇的な災害を前にして」という声明を出したのをはじめとして、今や日本のほとんどのプロテスタント諸教派が公式に「脱原発声明」の声を高らかに上げている最中に、この秋開催された第三八回教団総会（三・一一）震災・原発事故以後初の総会である（一）も、その後の常議員会も、「天災」は語られても「脱原発」には一切触れない。総会直後に各国の宣教師たちが福島に集まった会議の基調も結論もなんら臆することなく「反原発」・「脱

原発」であったにもかかわらずである。財界の思惑が入らざるを得ない国政というならまだしも、経済（マモン）の力を第一としないはずの「神学」が、この世以上に腰が引けているのだ。先の戦争の時と全く同じ現象が起きつつあるということなのではないか。

無くして、どうして力強く説教ができ、胸を張って伝道することなどできるだろうか。この問題は現場の牧師や信徒たちの方がはるかに先へ進んで取り組んでいるのというのに、何たる有様！「神学」者たちに活を入れ、猛省を促し、本書を薦めた

そうした思いを一気に吹き飛ばす快著がようやく登場した。著者は、かつて一九四九年の湯川秀樹「中間子理論」のノーベル賞受賞に奮い立ち『ブーム』にあつて物理学の学びに志した一人（七九頁）でもある。本書は「平和利用」を合言葉にさまざまな「安全神話」で自らを偶像崇拜させてきた原子力から「メタノイア」し、「下山する」ことを説く。『がんばろう日本』より、いま大切なのは『考え直そう日本』です』という被災地出身の元高校教師の新聞投書を取り上げ、著者は現代教義学の問題としての「自然科学」、「自然の神学」にまで思索を深める。本来こうした「原子力」と四つに組む「神学」の登場

（こかい・もとい）日本基督教団荻窪教会牧師
（四六判・二〇二頁・定価一六八〇円（税込）・キリスト新聞社）

LAC ブックス
岩田雅一 著
カオス
抑圧の最前線～六ヶ所から

福島過酷事故から2年を過ぎ、原発問題は風化し始めています。再処理を含め、核問題の歪みが集中している六ヶ所村の問題に30年以上取り組み、その時々々の状況を庶民の立場から見通したエッセイ。著者岩田雅一は牧師であると共に写真家。

そのフォトグラフは現実の姿を見事に切り裂く。これは記録と同時にひとつの文明論である。

四六判 280頁・1500円＋税

LAC ブックス
中ノ瀬重之・他 著
喜んであなたのパンを食べなさい
—共に学ぶ「コヘレトの言葉」—

「コヘレトの言葉」の時さ遺民。文時をと
抑み庶歌。難章も背景を
踏たされへ難章も背景を
言代れられへ難章も背景を

よくわかります。

四六判 178頁・1000円＋税

ラクネット出版
〒250-0117 南足柄市塚原 4919-141
Tel./FAX: 0465-73-0531
メール: tokubo09@pk9.so-net.ne.jp

生と死をめぐる真摯な対話

イノチを支える
癒しと救いを求めて
黒鳥偉作×平山正実 対話集



関正勝

本書はいのちを支えようとの共通の目標と重い課題を持つて医療現場で日夜取り組んでおられるお二人の対話集である。お一人は、約五〇年以上にわたってキリスト者として精神医療の現場に立つてこられた平山正実氏、もうお一人の対話の相手は牧会者として、同時に内科医として働いておられる若い（一九八四年生まれ）黒鳥偉作医師のお二人。お二人の対話は黒鳥医師の資格や職種としてではなく自らが痛み苦しむ病む者に関わる姿勢・在りようとしてサイエンスとアートを備えた「牧医」であろうとする覚悟への平山正実氏の共感・共鳴が生み出した対話集であり、同時に現代の医療現場が陥っている現実への警鐘の書ともなっている。

科学技術としての医療は、わたしたちの生活に広く大きく関わりを持つに至っている。科学技術の持つ光と影が、医療現場にも大きく投影されて、これまでの日常の生活世界がそれとなく大切にしてきた生命観や健康観に重い負荷を掛けている。専門分化した現代医療は、部分（病氣）を診て全体（人間）を看ないと病氣は治ったが病人は死んでしまったと批判されるよ

うな現実を生み出していない、とはいえない。人間は多元的存在であり、従って身体的、社会的、心理的そして霊的（スピリチュアル）な諸次元を含んで痛み、苦しむのであり、治療には全的なケアが求められている。その困難さの前に医療者は「うめいてしまう」ことがしばしばであるに違いない。ニーズを持った人の前で自分の専門性に居直るのではなく「うめき」立ち尽くせることこそ、寄り添う者の大切な姿勢であろう、と私は思う。何故なら、それぞれの専門性（サイエンス）から自由になつて、病む人に向かい合わないとき、病む人は「わがまま」といった説明の言葉でかたづけられかねないからである。そのような姿勢からは病者をどう支えるかという医療者自らへの深刻な問い掛けは（自己正当化はあっても）起こりえないであろう。著者たちが共に「愛を伴う祈りが必要」と語っている事情もこの辺にある、といえよう。

「牧医」という造語で黒鳥医師が語ることは全人医療の根幹を成すものであろう。すなわち、黒鳥医師は医師としての病氣がもたらす人生の矛盾に直面して医師としての範疇を越えるこれ

らの問いの前での困惑経験を経て、しかし一方「教会では医療的介入が必要にも関わらず、信仰の問題として考えられてしまい、病氣を見過ごしてしまうことがあります」という深刻な問題をも捉えて、医療とキリスト教の接点を探ること「医療現場で何が必要とされているのか、教会の中で何を語ることが求められているのか。現代にこそ、両方の視点を持つて一緒に悩み、考えていく牧医の視点を持つことが重要」であると提言する。

お二人の対話は医療の臨床現場の課題が多岐にわたって展開されているのであるが、インフォームド・コンセントについては十分な説明と納得・同意を得ることの難しさを黒鳥医師が吐露して、平山医師がその意味には「正確に情報を伝える」という意味の他に「勇気づける」「元気づける」という意味がある、との指摘は重要であろう。また病院などの組織でのサーバント・リーダーシップという提言も注目される。仕事に対する

神の見守りを確信し、勝利するという信仰と同時に周囲の人のびとに仕えるという苦難の道である「狭い道」が語られている。対話者はキリスト者として医師として聖書の物語、特にイエスによる治療物語を読み解いていく。その一つに三八年間「ベトサダ」の池に横たわった病人とイエスとの対話からこの病人が全く周囲への信頼を失い、尊厳と生きる意欲を失っている姿を見て取り、ここに医師のそしてキリスト者のミッションがあることを指摘する。「祈りのカルテを書きとめ、希望の処方箋を出し続け、神様の愛を人の中に探していくという召命」（黒鳥）を抱く医師たちが、医療現場に変革の光をもたらしてくれるに相違ない。

（せき・まさかつ）立教大学名誉教授

（四六判・一九六頁・定価二二〇〇円〔税込〕・キリスト新聞社）



聖公会出版

ヘンリ・ナウエン

その生涯とビジョン
M・オラフリン著
廣戸直江 訳
キリスト教霊性の著述家として多くの作品を残したナウエン。その幼年期から死にいたるまでのナウエンの生涯を写真と彼の語ったことばで綴る。本邦未公開の写真も多く掲載。A5判・212頁・定価 2100 円



礼拝はすべての人生を変えてゆく

～その働き、その大切さ～
ポール・ブラッドショー 編
榊原芙美子 訳

現代英国の礼拝学の碩学ブラッドショーは「教会はいつでも本来あるべき姿になってゆく途上にある」と唱える。そんなブラッドショーが若い世代に問いかけた名著の翻訳。全編カラーの美しい映像の中で、礼拝の神髄が語られる。A5変形・52頁・定価 1575 円



アダム—神の愛した子

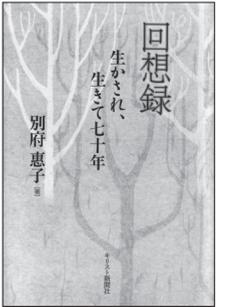
H・ナウエン著／宮本 憲訳
大学で神学を講じていたナウエンは魂の遍歴の末に行き着いたラッシュでアダムと出会う。アダムの中に神の存在を見る。改訂新版。四六判・176頁・定価 1890 円



162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL03-3235-5681/FAX03-3235-5682
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

振り返るのは前に進むため
別府恵子著

生かされ、生きて七十年
回想録



増井志津代

「生きる」とは、永遠のいまをみずえること」。こう語る著者は十九世紀アメリカ文学研究者として、長年にわたり学会をリードしてきた。ヘンリー・ジェイムズ、イーディス・ウォートン研究の第一人者は、二十世紀最後の年、教授職を辞してキリスト教系女子大の学長という公職に就く。本書には、公的な場での語りを中心に収められている。入学式や卒業式における「学長のことば」、聖書をもとに語られたチャペル・トーク、地域行事での講演、折々に創作された英詩や親しい人々に向けたクリスマス・レター等、さまざまな形で限られた対象に向けて語られたことばが、こうして一冊にまとめられ、より多くの人々に届くことになった。

六章構成のプロローグでは、本書の底流にある四つの強調点が挙げられている。第一は「神慮」。人は自由意志で選択した人生を送っているように思いがちだが、実はその背後には神のご計画があるということ。第二は「備えてくださる神」。摂理（プロヴィデンス）により働かれる神は、また必要なものを備えてくださる（プロヴァイドする）神である。第三、イエス

の十字架上の死で表されたのは「非暴力の壮絶さ」であること。著者は、これをスーザン・ソントグが提示した「他者の痛みへのまなざし」と重ねる。第四は「神は愛なり」との告白。第一コリント一三章を通し、イエスの受難こそが神の究極の愛の表現と指摘する。

一九四五年八月一五日、著者が八歳の時に第二次世界大戦が「終結した」。しかし、この体験を踏まえて書かれた第一章のタイトルは、「まだ、戦争は終わっていない」とされ、イラクへの先制攻撃を行ったブッシュ政権を批判した日米の詩人たちによる反戦活動が紹介される。本書では繰り返し、二十世紀の重大な出来事として「二つの世界大戦と女性参政権の獲得」が挙げられる。大戦の時代を経て培われた平和主義、女性参政権獲得後の女子教育への使命——この二つは、本書を通じたテーマである。

アメリカ留学体験を経た著者は、個人の自由を尊重し、すべての人に平等と正義を保障しようとする民主主義の国に敬意を抱くものの、大義のためには戦争さえ辞さないアメリカに対す

る複雑な思いから抜けられない。結果として、「拝米」と「反米」の狭間を歩き来する。同じような思いを共有した人物として、「災難の種をまく」母国アメリカへの批判的視点を保ち続けた「越境」詩人リンドレイ・ウィリアム・ハベルの思想と作品が紹介される。コネティカット州出身のピューリタンの子孫ハベルは京都に住み、日本でその生涯を終えた。

ハベルが示した越境的視点は、ヴァージニア・ウルフ、ソントグといった女性の文学者たちに共有されていることを著者は示唆する。本書では、こうした知識人の担う役割について語られるが、女性達の叡智は、非言語的な活動においても、しばしば示されてきた。第三章所収の「キルティング・ビー——さええあう私たちのネットワーク」で紹介されたキルト製作に見られるように、声なき人々の連帯はやがて予想を超えた実を結び、本書のエッセイのひとつひとつはこうした連帯へと、いつのまにか読者をさそふ。

十九世紀アメリカを代表する思想家ラルフ・ウォルド・エマソンは、時代を俯瞰し、過去を振り返りながら未来を見据え、同時代人に向けて語る預言者の詩人（Prophet-poet）を理想とした。エマソンはまた、地域の聴衆に向けて大学や公民館で語り、その原稿を随筆としてまとめ世に問うた。公的な役割を担い、大学のチャペル、地域行事や講演会で、同時代に生きる人々に語りかける著者に、先行するパブリック・インテレクチャルの姿が重なる。「振り返るのは前に進むためなのだから」と、この『回想録』はコンコードの哲人の声に似て、前向きである。

（ますい・しつより）上智大学文学部教授、アメリカ・カナダ研究所所長
（四六判・三二六頁・定価二〇〇円）〔税込〕・キリスト新聞社

新刊

文化接触の
創造力

久保田 浩 編

LITHON

**文化接触の
創造力**

久保田 浩 編

●A5判並製 ●定価2,625円

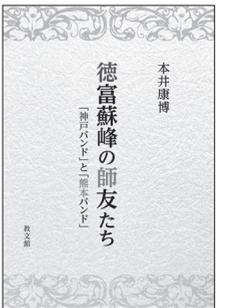
ブラジルのシンクレティックな宗教世界（丸山浩明）／オスマン時代におけるアヤソフィアのモスク転用（山下王世）／禅はヨーロッパでどう変わったか（佐藤 研）／予言者・宝誌の変成（小峯和明）／「異文化接触」から生成する文学（平野隆文）／トランスカルチュレーションの誕生（林みどり）／「反ユダヤ主義」の誕生（久保田 浩）／キリスト教とアイヌ民族の邂逅をめぐって——パチェラーのアイヌ伝道と聖公会のアイヌ観を中心に——（西原廉太）他2篇。

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

史・資料を駆使して描く初期同志社の人間群像
本井康博著

徳富蘇峰の師友たち 「神戸バンド」と「熊本バンド」



塩野和夫

「われらが蘇峰の生誕百五十周年記念日」(三五九頁)にあたる二〇一三年三月十四日に出版された本書は「青年期の蘇峰の周辺人物に特定して、彼らの交遊に照明を当て」(一頁)、丹念な史・資料調査と共同体の構造的な分析により初期同志社研究に新たな地平を拓いている。力作である。章立ては五章構成であるが、実質的には「第一章 同志社時代の徳富蘇峰」から「第四章 熊本バンドをめぐる諸問題」が前半で初期同志社に学んだ学生集団を構造的に分析している。「第五章 人物列伝」が後半で、人物研究によって前半と対応させつつその内容を提示している。

前半四つの章は、「同志社最初の入学生八人とは、誰か」「神戸バンドの抽出」「熊本バンドとは何か。誰か」「熊本バンドの」相互に抗争する二重構造の検証(三頁)などを手がかりとして、初期同志社に学んだ学生を構造的に分析する。その結果、最初の八人が特定され(二六頁)、神戸バンドは定義される(三四頁)。熊本バンドも定義され(六九頁)、人数は三七人とされる(七四頁)。さらに、熊本バンドの内部では「パイプ

ル・クラス」(教会派)と「同心交社」(政治派)が対立し(五一頁他)、神戸バンドも両派の中間にいた学問派と教会派に接近したグループがいた(五六頁)とされる。このように学生を集団として捉え彼らの構造を分析する手法を採るために、その定義や人数、グループによる動向が詳細に検討され明らかにされる。ここに本書の際立った学問的功績と限界がある。たとえば、「神戸バンド」にしても「熊本バンド」にしても、それは歴史の集団の概念であり、それぞれに豊かな歴史的特色を秘めている。そうだとすると、構造的な分析によって歴史の個性を持つ精神的・霊的・文化的豊かさにとどまらず肉薄できたのか。ここから歴史研究の主要な課題に対する本書の限界とこれからの研究テーマが明示される。

後半の第五章は前半の分析結果を満たす四グループ三二名の人物伝であり、次の通りである。「一、神戸バンドの五人」元良(杉田)勇次郎・中島力造・本間重慶・須田明忠・二階堂(横山)円造、「二、神戸バンド周辺の三人」田中伝吉・渡辺某・吉川巖、「三、熊本バンド」(パイプル・クラス)「小崎弘

道・海老名弾正(喜三郎)・宮川経輝・市原盛宏・不破唯次郎・金森通倫・横井(伊勢)時雄・山崎為徳・浮田(竹村)和民・加藤勇次郎・吉田(宇野)作弥・下村孝太郎・岡田松生・森田久萬人・和田正脩・横井時敬、「四、同心交社」徳富蘇峰(猪一郎)・蔵原惟郭・家永(辻)豊吉・大久保真次郎(真二郎)・上原方立。初期同志社に学んだ学生の人物伝(横井時敬を除く三〇名)は、「要するに、狙いは、蘇峰を軸とする初期同志社学生たちのデータベース」(三五八頁)とされる。本書に關して言えば前半の構造分析で示された器に満たす内容である。史料を駆使したこれだけの人数の人物史研究をこなせるのは本井氏をおいて他にはない。その意味で初期同志社研究の基礎的業績としての性格を持つ。しかし、記述内容においてばらつきがあり、その説明もないことは悔やまれる。たとえば、伝記と資料が混在した人物伝(横井時雄・加藤・岡田等)や資料紹介だけの叙述(徳富)がある一方で、伝記だけの人物伝(元良・中

島・本間等)もある。あるいは人物伝でも全生涯を対象とした研究(須田・二階堂・田中等)に対して、同志社関連の時期に集中した記述(海老名・宮川・市原等)がある。このようなばらつきは各グループの初めに説明文を入れるとか、資料と人物伝を分ける等の工夫でかなり解消できたと思われる。同志社は関係者のドラマ化で、ある種のブームにあると言う。しかし、ブームは必ず過ぎ去る。その後には一体何が残るのか。初期同志社に關する堅実な研究業績がこの時期に出版されたことを多とし、心から喜ぶたい。

(しおの・かずお) 西南学院大学教授
(A5判・三八四頁・定価三九九〇円〔税込〕・教文館)

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

今すぐ
アクセス!

本のひろば ホームページ

<http://www.bunshyo.or.jp>

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人
キリスト教文書センター
〒162-0814 東京都新宿区
新小川町9-1
TEL・FAX 03-3260-6520

既刊案内 (2013年2月～3月) (定価は税込)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	定 価	版 元	発 行 日
アウグスティヌス著 金子 晴 訳	アウグスティヌス著作集 別巻1 書簡集(1)	A 5	384	5,460	教 文 館	2/25
鄭 玪 訳	天皇制国家と女性 —日本キリスト教史における木下尚江—	A 5	412	4,410	〃	2/25
近 藤 存 志	キリストの肖像 —ラファエル前派と19世紀イギリスの画家たち—	A 5	204	2,625	〃	2/25
デイヴィッド B.ガウラー著 駒 木 亮 訳	神学は語る話 と え	A 5	202	2,730	日本キリスト局 日教 団 出 版 局	2/21
上 遠 恵 子	ひかりをかかげて レイチェル・カーソン —いのちと地球を愛した人—	A 5	128	1,260	〃	2/22
R.N.ワイブレイ著 加藤久美子 訳	ニューセンチュリー聖書注解 コヘレト	A 5	304	4,830	〃	2/22
山 田 隆	現代に聖書を読む4	A 5	444	3,675	新 教 出 版 社	2/15
宮 平 望	ガラヤ人・エフェソ人・フィリピン人・コロサイへの手紙 —私 訳—	A 5	464	2,625	〃	2/17
キリスト教年鑑 編集委員会 編	キリスト教年鑑 2013 — C D 付 —	B 5	840	12,600	キリスト新聞社	2/20
ネヴィル・タン 金本美恵子 著	7-1 と呼ばれた受刑者が神さまと出会う物語	新書	242	1,050	ヨ ベ ル	2/1
平 出 慶 一	主のあわれみ限りなく	四六	188	1,050	〃	2/1
及 川 信	盲人の癒し・死人の復活	四六	312	1,995	一 麦 出 版 社	2/19
津 田 謙 治	マルキオン思想の多元的構造	A 5	250	4,200	〃	2/21
D.マッコム著 原 田 浩 訳	長老教会の問い、 長老教会の答え2	A 5	174	2,100	〃	2/24
教文館子どもの本の みせナルニア国編 上 村 敏 文・編 笠 谷 和 比 古・編	2012年に出た子どもの本 日本の近代化とプロ テストアンティズム	B 5	178	1,260	教 文 館	3/3
神 原 康 夫	使徒言行録講解5 — 1 6 - 1 9 章 —	四六	278	2,520	〃	3/10
本 井 康 博	徳富蘇峰の師友たち —「神戸バンド」と「熊本バンド」—	A 5	384	3,990	〃	3/14
岩 野 祐 介	無教会としての教会 —内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」—	A 5	320	4,725	〃	3/20
N.タナセ 二 著 野 谷 啓 二 訳	新カトリック教会小史	A 5	320	3,360	〃	3/25
M.ヒンメルファーブ著 高 柳 俊 一 訳	コンパクト・ヒストリー 黙示文学の世界	四六	288	2,415	〃	3/25
キャサリン・バタソン文 パメラ・ドルトン 絵 藤 本 朝 巳 訳	たいようもつぎも —フランチエスコのうた—	B4変	32	1,575	日本キリスト局 日教 団 出 版 局	3/17
雨 宮 栄 一	ドイツ教会闘争の史的背景	四六	360	2,940	〃	3/21
W.F.オールブライト著 小野寺幸一 訳	聖書学 古典叢書 石器時代からキリスト教まで —唯一神教とその歴史的過程—	A 5	450	6,300	〃	3/25
宮 本 久 雄・著 武田なほみ 編	女と男のドラマ —現代における愛の源泉 2012年上野大学神学部夏期神学講習会講義集—	四六	336	2,940	〃	3/25
F.W.ダブス=オルソップ著 左 近 豊 訳	現代聖書注解 現 象	A 5	274	5,670	〃	3/25
末 盛 千 枝 子	ことばのともしび	四六	160	1,050	新 教 出 版 社	3/20
青 野 太 潮	最初期キリスト教思想の軌跡 —イエス・パウロ・その後—	四六	856	6,300	〃	3/22
崔 亨 默 一 著 金 忠 一 訳	権力を志向する韓国のキリスト教 —内部からの対案—	新書	180	1,785	〃	3/23
カール・バルト著 天 野 有 編 訳	バルトセレクション5 —教会と国家II—	文庫	648	1,995	〃	3/29
セシル・ブルック・ムラン著	おじいちゃんが小さかった頃	四六	134	1,000	キリスト新聞社	3/8
ケ ン ・ ボ ー ド	ワンポイント・エッセイ集 アミューズング・グレース —一恵みゆえの楽しさ—	B 6	248	1,680	ヨ ベ ル	3/20
〔改訂新版〕 山本美紀他 編 著	幼児教育・初等教育のための音楽基礎知識と表現 —音楽でつむぐ学びの歳時記—	B 5	176+32	2,940	〃	3/31
袴 田 康 裕	ウエストミンスター 信仰告白と教会形成	A 5	300	4,620	一 麦 出 版 社	3/19

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-136 敷島センター17号F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短箱22 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www/seikokai-pub.jp/	netk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisu@youstotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yodobara.cs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs	ochtbok@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中央区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町11-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emacbs@yahoo.co.jp	

新教出版社

福音と世界

2013年6月号

特集 教会とは誰か①

- 街場の教会論……………内田樹
- アンテイオキア事件と教会……………吉田忍
- 「なんで教会に行くんですか」と
生徒に聞かれたら……………金伽耶
- 聖書の暴力をしばき隊……………久米淳嗣
- 経済と教会……………福田順
- 自民党改憲草案の意味②……………横田耕一
- 語り継ぐ3・11⑥……………井上智
- 旅する教会——再洗礼派と教会……………早川朝子

A5判・80頁・本体571円・〒68円
年間予約購読料〒共8,016円（消費税込）

イエス・キリストの生涯の要約

珠玉のイエス伝 パスカル著／森川甫訳



「パンセ」の草稿の横で発見された遺稿。パスカルが四つの福音書を深く読み抜き、キリストの生涯を354の断章から構成した傑作。

◎B6判・168頁・定価1890円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

編集室から

〈日本最初の公害〉と言われる足尾銅山鉱毒問題に取り組み、生涯を鉱毒問題と治水事業に捧げた田中正造が亡くなってから今年でちょうど百年になる。私が彼のことを知ったのは小学校だったか中学校だったかは忘れたが、確か国語の教科書に掲載されていた、彼の、あるいは彼について書かれた文章によってである。もうかれこれ三十年近くも前のことなので、現行の教科書が彼のことを取り上げているかどうかは分からない。だが、少なくとも世界に誇れる日本人としては、近隣諸国に対して威勢よく匹夫の勇を示す政治家よりは田中正造の方がずっとふさわしい、ということだけははっきりと言える。

よく知られているように彼は鉱毒問題についてその時の天皇に直訴しようとした。直訴は失敗に終わったが、それが引き金となって世論は沸騰し、政治家や言論人、学生や宗教人、社会主義者、国粹主義者など、思想・信条の違いを超えた支援活動が活発化する。折しも最近、内村鑑三と木下尚江についての研

究（鄭珉汀著『天皇制国家と女性——日本キリスト教史における木下尚江』と、岩野祐介著『無教会としての教会——内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」』が相次いで刊行されたが、内村と木下も足尾銅山鉱毒問題に強い関心を寄せていた。残念なことに田中の死後、鉱毒問題は社会の表舞台から消えてしまう。問題は解決していなかったたので、その後も周辺地域では大洪水や激甚な旱魃が頻発した。二〇一一年三月一日には決壊した堆積場から鉱毒汚染物質が渡良瀬川に流下した。

田中正造は死んだ。しかし、「真の文明は山を荒らさず川を荒らさず 村を破らさず 人を殺さざるべし」という彼の言葉は今も存在感を示している。有名作家の最新刊のように百万部も売れる本をつくることは私にとっては至難の業である。ならば細々とでもよいからせめて田中正造が残した足跡のように百年たっても内容が色あせない本を世に出したいものだ。（中川）

人格と人権

キリスト教弁証学としての人間学 下

大木英夫



近代人はなぜ、人格として自立し、人権を帯びねばならないのか。日本国憲法の「最高法規」と明示された人権理念の源泉を歴史的に探り、人格と人権に基づく神学的人間論の再構築を試みる。

● 5,565円

好評発売中!

『人格と人権』キリスト教弁証学としての人間学 上

『組織神学序説』プロレゴーマナとしての聖書論

『信仰と倫理』十戒の現代的意味

『時の徴』第三ミレニアムとグローバル化セッション

『ローマ人への手紙』現代へのメッセージ

● 3,990円

● 5,250円

● 1,995円

● 2,310円

● 3,675円

キリスト教教育と私 前篇

塩野和夫

知と徳を鍛える教育

● 1,575円



戦後日本のキリスト教教育はどのようなものだったか? 本書では、新島襄の思想に触発され、恩師の教育への情熱に導かれてキリスト教教育に携わるまでの若き日の模索を描く。

使徒言行録講解6

榎原康夫

20—28章

● 2,520円

聖書への深い信頼に基づいた講解説教。榎原牧師が現代時代の最後と、引退後に名誉牧師となって説き明かした全114篇の説教を全6巻に収録。全6巻、遂に完結!

一神教の歴史的接点 探る



コーランの中のキリスト教

その足跡を追って

J・グニルカ 矢内義顕訳

● 2,310円

コーランの中に出てくるキリスト教徒とは誰か? また、コーランにはどのような聖書の諸伝承が見出されるのか? コーランのイエス像はどのように形成されていったのか? 新約聖書学における碩学が、歴史のかたに忘却されたユダヤ人キリスト教徒の起源と足跡を追いながら、ユダヤ教・キリスト教・イスラームの歴史的接点を探る画期的な試み。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館

神学の起源

神学の社会的機能

深井智朗 著 シリーズ《神学への船出03》

神学とは何か？本書は神学を、同時代との交渉を通して変貌するダイナミックな運動として捉える。これまでの神学思想史はややもすれば神学を教会内部の自閉的な論理に教理史に閉じこめてきた。その殻を打破する画期的な神学論。

▼好評！シリーズ《神学への船出》既刊3冊

00 神学部とは何か 非キリスト教徒にとってのキリスト教入門

佐藤優著 鬼才の原点とも言うべき「神学部」 ◆四六変・定価1785円

01 隣人愛のはじまり 聖書学的考察

辻学著 鬼才の原点とも言うべき「神学部」 ◆四六変・定価1785円

02 旧約聖書と新約聖書 「聖書」とは何か

上村静著 目からウロコの面白さ ◆四六変・定価2100円

歴史観とキリスト教

黒川知文 著（くろかわ・ともふみ氏は愛知教育大学教授）

歴史には意味や目標があるのか。様々な歴史観にキリスト教が与えた多様な影響を、詳しく検討。

同じ著者の本

内村鑑三と再臨運動 救い・終末論・ユダヤ人観

大正期のキリスト教界を揺るがした事件を解明 ◆四六判・定価2310円

5月24日

最初期キリスト教思想の軌跡

青野太潮著 イエス・パウロその後

キリスト教思想成立の過程に肉薄し、その意味を考察した刺激的論考29編を収録。青野新約聖書学の集大成とも言うべき大著。

◆四六判・定価6300円

バルト・セレクション5

教会と国家II

反ナチズム／教会闘争時代 天野有 編訳

イエス自身の信仰に力強くより頼む「福音と律法」、キリスト教的国家観を鮮明にした「義認と法」ほか8編を収録。

◆文庫判・定価1995円

生誕100年記念出版！

好評発売中

渡辺禎雄聖書版画集

くすしきみわざ

国際的に高い評価を得ている渡辺画伯の代表作73点を収めた決定版作品集。

◆A4判・定価5250円